

同様に確からしい

1枚の硬貨を投げたとき、表が出ることと、裏が出ることは、同じように起こる可能性があり、これを同様に確からしいという。

確率の求め方

起こり得ることが同様に確からしいときに、起こり得ることが全部で n 通りあり、そのうちに a 通りのことが起こる確率 p は次のようになる。

$$p = \frac{a}{n}$$

確率の値の範囲

あることがら起こる確率 p は次の範囲にある。

$$0 \leq p \leq 1$$

確率の求め方の工夫

確率を求めるときに、起こり得る場合のすべてを、表や樹形図を使って調べることができる。

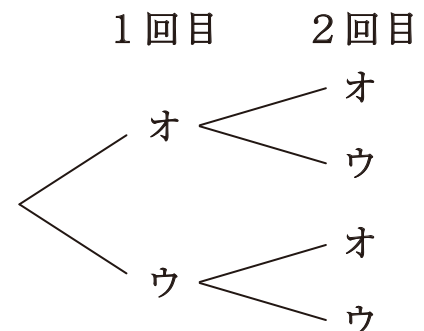
- 1枚の硬貨を2回投げるとき、2回とも表が出る確率を求めなさい。

表をオ、裏をウとする

表を使って調べる

1回目 \ 2回目	オ	ウ
オ	オ・オ	オ・ウ
ウ	ウ・オ	ウ・ウ

樹形図を使って調べる



起こり得る場合は全部で4通りある。2回とも表が出る場合は1通りある。求める確率は $\frac{1}{4}$ となる。